

たどつのもかし

Vol. 18 2017.4.1 発行

町指定文化財が新たに誕生しました！

第50番町指定文化財(歴史資料)

「武田三郎の版木と関係資料」



武田三郎氏

武田三郎(1915~1981)は多度津町を代表する版画家です。また多度津町の近代化の礎を築いた多度津七福神のひとりである武田熊造の孫にあたります。武田三郎の版画は棟方志功にも認められ、全国的な版画展にも出展するほどの作品が多くありました。作品を制作していた場所である多度津町や四国をテーマにした作品が多く見られます。また「多度津町広報」表紙なども担当するなど、町ともつながりが深い作品も製作されています。今回その彼の版木

とそれに関する関係資料などを含んだ一括資料が多度津町指定文化財になりました。

基本的に版画の中でも木版画を扱い、扱うテーマは人物や静物もわずかにあるものの、主に建物や風景を取り上げています。作品は単色、多色刷り両方があり、その画風はやや強調された黒のアウトラインを基調に、素朴で牧歌的なものです。

資料数は版木の組合せ数が693組1792点、試し刷りや、冊子など関係資料が(試し刷り1074点・版画14点・冊子1冊・絵葉書集2点・その他4点)1081点あります。

多度津町を代表する芸術家(版画家)の作品に関わるものとして、これほどの組数、点数を一括で保存できていることは貴重で、また版木に刻まれた内容が多度津町内の昭和時代の風景を捉えた町並み、歴史的建造物、遍路に関わるものが多くあり、多度津町の昔の風景を偲ぶ資料として重要な資料であるといえます。



文化年間の多度津湊



東御殿(家中にあった家老屋敷)

トピック：多度津町文化財マップができました

多度津町内にある文化財の紹介をした「多度津町文化財マップ」ができました。このマップは町内にある文化財のなかで、見学しやすい、お勧めしたいなどの理由でピックアップされたものを紹介しています。この文化財マップを手にとりて町内を巡って歴史や文化に興味を持つきっかけになってもらえればと考えています。

